
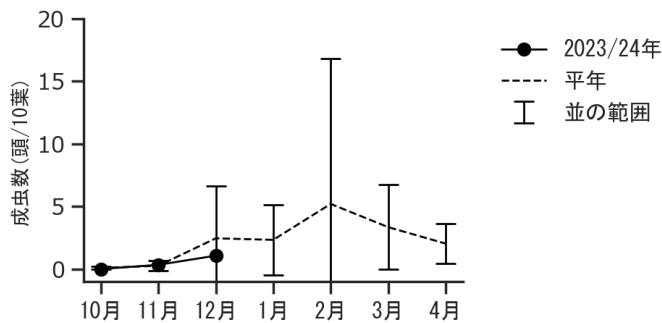


作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

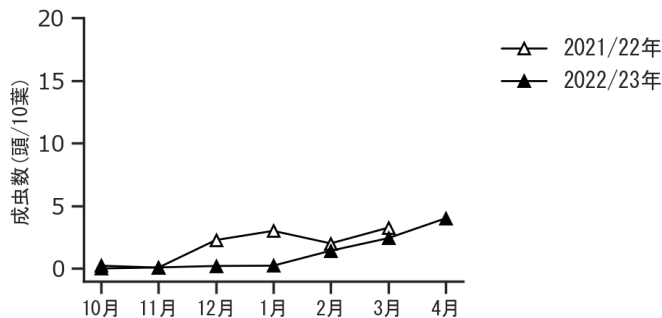
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>




<過去2年>



・発生ほ場率60.0% (平年 : 38.6%)

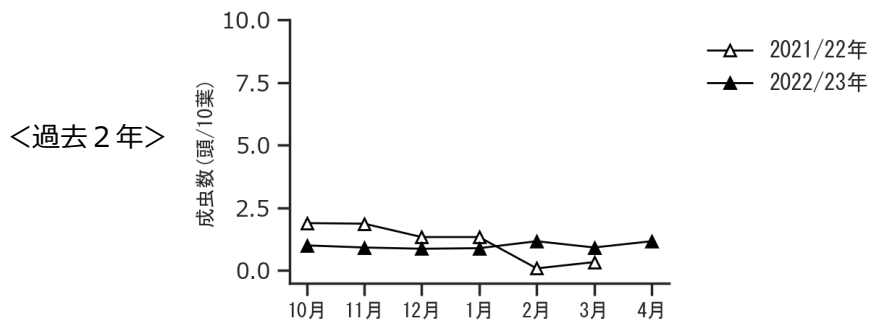
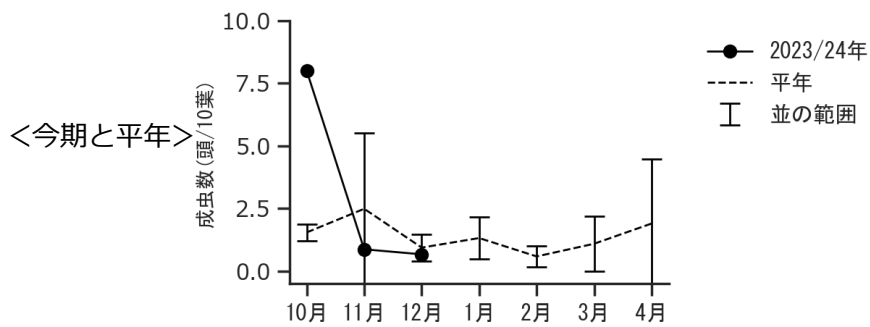
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移




・発生ほ場率80.0% (平年 : 75.5%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

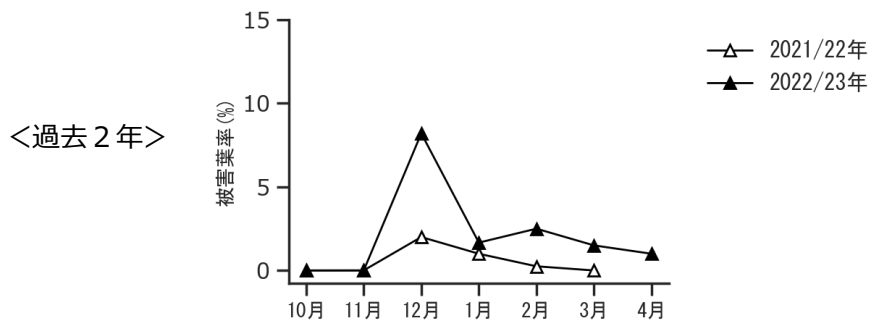
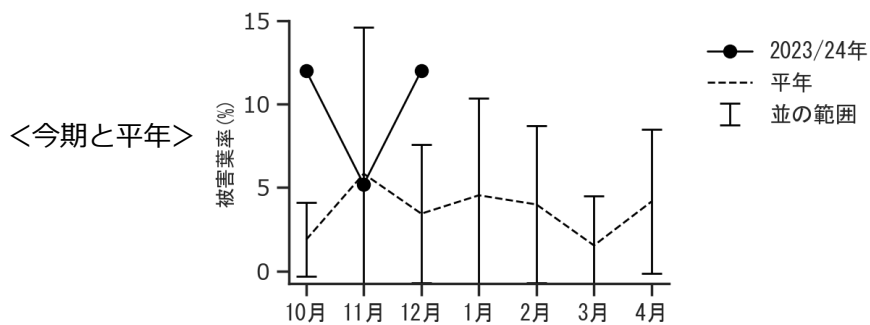


幼虫

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

被害葉率の推移




・発生ほ場率40.0% (平年 : 64.1%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・野外に多数の在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

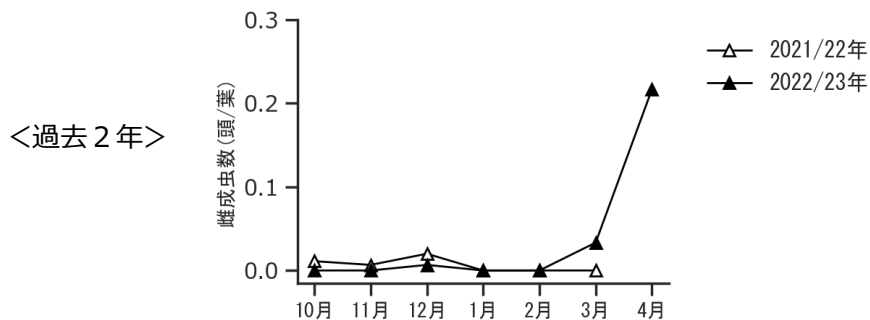
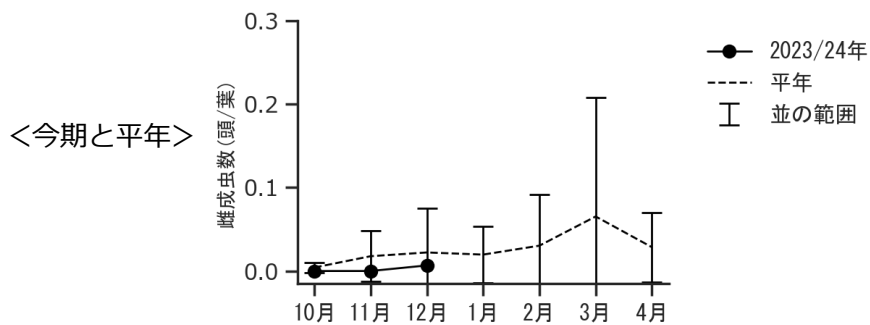


被害葉

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果


雌成虫数の推移



- ・発生種：ナンゴクナミハダニ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：15.4%)

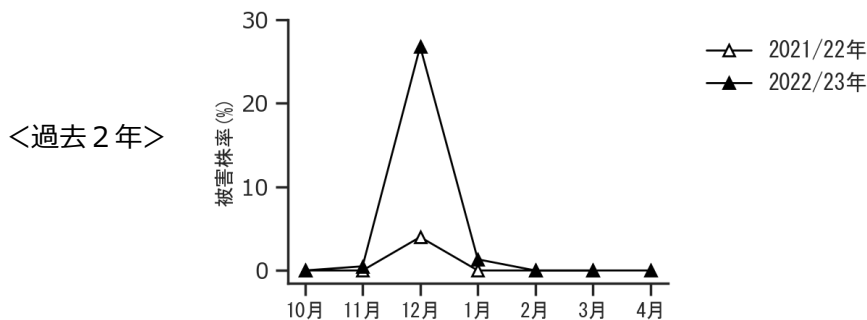
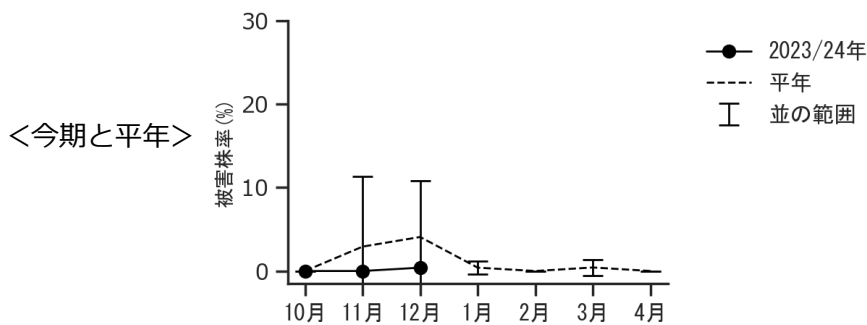
防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	ホコリダニ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	↓		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

被害株率の推移



- ・発生種：チャノホコリダニ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：17.9%)

防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草除去に努める。
- ・発育速度が早く、短期間で高密度になりやすいため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っているため、薬散は丁寧に行う。